

今期中に510名の 客室乗務員を採用！ 解雇の必要はなかった！ことが明白に！

支える会通信

発行責任者
柚木康子
大田区羽田
4-10-4
石井ビル3階
TEL03(6423)7878
FAX03(6423)7430
e-mail
sasaerukai@
lemon.plala.
or.jp

直ちに原告らを 職場に戻せ！

地裁の不当判決が出された直後の4月9日に日本航空が新規採用を三年ぶりに再開し、客室乗務員も200名程度採用すると発表したのは記憶に新しいところです。その折既卒者も併せて募集するとしていましたが、採用数は明らかにされていませんでした。

5月21日の労使交渉の場でなんと客室乗務員については今年7月入社既卒の日本人250名、外国人260名計510名の採用を行っていることが明らかとなりました。来年4月の新卒者とあわせると710名にもなります。

解雇して1年5か月でこのように大量の採用が

必要となるといふことは、不当解雇を強行する必要がなかったということを証明しています。

新人を採用すれば訓練に数か月を要しますが、原告は5日間の訓練で仕事に復帰できません。しかも長年の経験を積んだ仕事を71名職場に投入することができません。

職場では、退職をしたくても待つてくれと言われ、すぐに退職できないほど人員不足が深刻となっている現状を見れば、日本航空は直ちに原告を職場に戻すべきです！

都内6カ所 一斉宣伝行動！

都内6カ所一斉宣伝行動を行いました！



2012年5月29日 一斉街頭宣伝の品川駅港南口

のべ参加者数314名！
ピラ配布数6千640枚！
5月29日18時（有楽町のみ）
18時30分
から1時
間、都内6カ所
（立川、新宿、有楽町、品川、錦糸町、池袋）
で国民支

援共闘会議主催により一斉街頭宣伝を行いました。当日は雷雨、雹が夕方から予想されていました。が、東京地裁不当判決に対する皆の怒りで進行方向を北に変えたため、何とか大雨にあわず予定通り街宣、ピラの配布を行うことが出来ました。

各駅には所属労働団体を超えて不当解雇撤回に向けて闘うことを新たに決意した支援団体、原告団が集まり、次々とマイクを握って駅前を通る人々に訴えました。台風並みの強風で街宣車の上は大揺れ、幟、横断幕も飛ばされそうな状況の下、熱心に訴えを聞く人や、ピラを撒く支援者、原告に話しかけ激励してくる人やこんなこととがJALで行われているのかと質問をする人も少なからず、この問題の異常さに対する世間の人々の驚きも実感される行動でした。各駅の詳細は次の通りです。

三多摩地区（立川駅北口）参加者29名、参加支援団体8 枚。ピラ配布数700枚。立川は他の駅に比べてピラの受取が良いです。

東部地区（錦糸町駅）参加者28名、参加支援団体7、ピラ配布数500枚。茶髪のジーンズにアケセをいろいろつけたイケメンの若者が街宣終了後に拍手をしてくれました。

西部地区（新宿駅南口）参加者28名、参加支援団体14、ピラ配布数700枚。40歳前後のサラリーマン風の人がピラを受け取りに来て、「昨年リコーを退職強要により大量に自主退職させられた。企業のやり方はひどい。自分には組合がなかったが本当に頑張っていました。」と握手をしていきました。

中部地区（有楽町マリオン前）参加者28名、参加支援団体11、ピラ配布数350枚。JALを早期退職した人が駆け寄り、「労働組合の大切さが辞

めた今になって本当によくわかります。何かできることはありませんか？」と励ましてくれました。

北部地区（池袋駅北口）参加者25名、参加支援団体8、ピラ配布数490枚

南部地区（品川駅港南口）参加者50名、参加支援団体20、ピラ配布数800枚。お子さん連れの若いお母さんに「頑張ってください！」と励まされ、感激しました。

東京以外では以下の日程で宣伝行動を行いました。

大阪伊丹空港（24日）参加者45名、ピラ配布数千枚。京都駅（18日）参加者22名。ピラ配布数500枚。福岡（30日）福岡空港。参加者11名。ピラ配布数300枚。

博多駅。参加者18名。ピラ配布数800枚。小倉。参加者30名。ピラ配布数500枚。



JAL解雇撤回 愛知の会を結成

3月31日、愛知でJAL解雇撤回愛知の会を結成しました。

愛知でAICHI陸海空港労組連絡会が中心となつて3月31日、不当解雇とたたかう日本航空労働者を支える愛知の会（略称：JAL解雇撤回愛知の会）が会場あふれる80名の支援者の参加で結成されました。

愛知では、99年以降、交通関係労組が集まり、ガイドライン法や有事関連法など平和に取り組む運動を進め、02年にはAICHI陸海空港労組連絡会が結成されていました。

交通運輸の現場で働く労働組合の立場から平和の問題に取り組み、定例の会議や年1〜2回の学習会を積み重ねてきました。10年頃からはJAL問題について議論を行ない、

10年末の解雇事案発生を受け、翌11年5月に開催した一泊学習会（主テーマは「震災をうけての交通体系の在り方」）では、原告団から4名参加して

もらい、空の安全問題・交通体系問題を含め、JAL争議のネライについて議論を深めました。その際、愛知での支援組織づくりに着手することを確認し、準備に入りました。

11年12月には、呼びかけ人に名古屋大学の和田肇教授や桜花学園大学の森田優巳教授、名古屋法律事務所松本篤周弁護士、愛労連の樽松佐一議長をむかえて結成準備会を発足させてきました。

その後事務局体制を整備して3月31日に正式結成となつたわけです。判決直後の結成総会という事もあり、会場には定員

オーバーの立ち見状態の参加で熱気にあふれました。前段に行なつた名古屋駅前での街頭宣伝行動には、強い風雨にも関わらず40名の仲間が参加しました。

本争議は、JALを舞台としていますが、本質は国の航空政策・労働政策とのたたかいです。また、航空運賃の安売合戦が激化する流れのなかで起きていることも見逃すわけにはいきません。

JAL争議は、原告団のみならず交通運輸労働者のたたかいてもあります。また、東京地裁判決は「解雇4要件」を形骸化する内容でもあり、全労働者への挑戦でもあります。

私たちは、安全・安心な交通運輸の実現と戦時（事）協力を許さない交通現場労働者の権利確立を視野に入れて、JAL解雇撤回闘争の勝利・早期の職場復帰をめざし、原告団とともにたたかっています。

事務局 谷藤（建交労）

秋田で支える会が 結成されました！

思いおこせば95年夏のこと。秋田県教組が講演会を開催しました。そのときの司会が私で、講師はJALの客室乗務員組合の方。

そして講演内容はアルバイト・スチュワーデス導入に反対する闘いの報告でした。当時、日経連は

「新時代の『日本的経営』」なる雇用流動化策を発表。JAL経営陣は率先して雇用崩しにトライしていました。

あれ以来17年。不安定雇用は全産業に広がり、日本は格差と貧困の社会に改造されてしまっています。

その昔、秋田で講演した方も強制解雇の対象となり、いま

まいりました。そのJAL経営陣が今度は正社員の強制解雇に打って出たわけです。財界による解雇自由の社会実験とみて間違いはないでしょう。

裁判で敗訴すれば、不安定雇用社会に続いて「解雇自由」社会が到来すること必至です。

原告団の1人として頑張っています。少しでもお役に立てればと、秋田でも「支える会」を結成し、私が代表を務めることになりました。

会員を拡大することと原告団のたたかいに連帯します。
加藤麻里（秋田県議・社民）
*秋田支える会代表・加藤麻里（県議）、副代表・菅谷由美子（県教組女性部長）、副代表・佐藤善吉（真教組書記）、事務局長・伊藤正通（県教組委員長）、事務局（秋田市山王4-4-14 秋田県教組本部内）
結成日 5月1日
附記 副代表はあと数名増える予定

6月13日 日航本社前行動 17:30〜天王洲アイル
6月18日 解雇自由にNo! JAL地裁判決を問うシンポジウム 18:30〜新宿文化センター
6月29日 都内6カ所駅頭 宣伝18:00〜（有楽町のみ18:30〜）（新宿南口、池袋東口、錦糸町北口、品川駅南口、立川北口、有楽町マリオン前）
7月12日 日航本社前行動 17:30〜天王洲アイル
7月26日 高裁勝利に向け、原告団を励ます集い 18:30〜日比谷公会堂
7月27日 都内6カ所駅頭 宣伝18:00〜（有楽町のみ18:30〜）
8月29日 都内6カ所駅頭 宣伝18:00〜（有楽町のみ18:30〜）

今後の 取り組み予定

JALへのアンケートに 皆様のご意見を！

自宅メールにJALからカードについてのアンケートが届いた。最後にご意見欄があり以下のように記入して送信した。顧客としてJALへ直接意見を届けるチャンスだ。

「会社再建中と聞いていますが、利益よりも安全第一でお願いします。

そのためには2010年に解雇したパイロット、客室乗務員、契約制客室乗務員を職場にもどしてください。

また、JALの契約打ち切りで会社が無くなってしまった日東整の整備士をJALの責任で整備職として採用してください。」

（昭和シェル労組 川島健次）

支える会会員拡大にご協力を！

会員入会ありがとうございました。

支える会の入会目標数は5万口ですが、現在目標には遠い状況にあります。雇用保険も昨年秋から1月には原告全員が切れ、生活費、活動費を稼ぎながら支援要請・行動・支える会への呼び掛け等を行う毎日です。力いっぱい活動し、勝利をもぎ取るために財政支援が急務となっております。会員の皆様の職場のお仲間、お知り合いに是非入会をお勧めいただけますようお願いいたします！

入会書は支える会HPからダウンロードできます。又事務局までご連絡いただければ入会リーフレットをお送りいたします。ご協力お願いいたします。

事務局 HP <http://sasaerukai.com>
: 03-6423-7878 Fax : 03-6423-7430
Eメール : sasaerukai@lemon.plala.or.jp



* 多数の御参加をお願い致します。
* 時間等に変更になることがあります。ご確認ください。
連絡先・共闘会議
03-3742-3251

原告団・事務局紹介

藤田浩司（高知県出身）



航空自衛隊航空学生第28期生出身で

す。

1978年に日本航空へ入社、12年間航空機関連士としてDCC 8、B747に勤務しました。

その後、職種変更し操縦士としてB747、B744に勤務しました。

2010年12月31日に整理解雇されましたが、解雇無効を訴え裁判闘争中です。

曾村佐知子（東京都出身）



いつも暖かいご支援ありがとうございます

います。

公判の度に、あんなにやさしい眼差しで見つめて下さっていた裁判長が、

突然心変わりするなんて・・・私達は最後まで諦めずに頑張りますので、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

石賀田鶴子（北海道室蘭市出身）



この一年間、本当に

多くの皆様に支えられてここまで来ることができました。

私たちの闘いは「解雇自由な社会を許さない」という意義があるとも思っています。

皆様からの更なるご支援をお願い致します。

下村京子（熊本市出身）



夢と希望を持って日本航空に入社し、

子育て後も女性として母として自立できる仕事と思いい、36年間頑張ってきた

ました。

一日も早く職場に戻れるように、団結して頑張りますので、更なるご支援をお願い致します。

神瀬（こうのせ）麻里子（大阪府堺市出身）



大阪の

拠点を閉めるから東京に転勤せよと言われて転勤。その半年後に解雇になりました。理由は過去の病歴でした。

退職する日は自分で決めたいです。豊中市在住です。

遠藤謙二（岐阜県出身）



51歳という年齢で整理解雇

になりました。

今回の整理解雇理由である「病欠や年齢の高いものから切る」といったことは到底認められない

ものです。

最後まで頑張りますのでよろしくお願いいたします。

山本 仁士（和歌山県）



支える会の皆様、ご声援、ご支援

ありがとうございます。

「まさか自分が整理解雇？」誰しもこのように考えてしまいます。

しかし、現実にそのことが私の身に起こりました。このようなことが普通のこととならないよう解雇撤回を求め、皆と共に原告に加わりました。

野中広秀（高知県出身）



現住所：茨城県守谷市、趣味：ドライブ、ウォーキング

海上自衛隊から民間航空に入社、ATPLの訓練開始直前に整理解雇の

対象となった。会社にならずに人生をつまずかされたので、私生活では杖をもって日々歩んでいくと思えます。

対象となった。

会社にならずに人生をつまずかされたので、私生活では杖をもって日々歩んでいくと思えます。

事務局

原田洋一（横浜市神奈川区出身）



元国労闘争団全国連絡会議

副議長・東京闘争団

解雇された者の怒りと苦しみを身をもって体験し、支援の有り難さと重要性を肌身で知っている者として、日航闘争の勝利のため全力で取り組みます。



原告団は全国16ヶ所のメーデーに参加し、支援を訴えた。